

# 令和6（2024）年度 病害虫発生予察注意報 第1号

令和6（2024）年5月13日  
栃木県農業総合研究センター

作物名：果樹類（なし・りんご・ぶどう・キウイフルーツ・もも・うめ等）

病害虫名：果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ）

1 発生予想 発生量 多い

2 発生地域 県内全域

3 注意報発表の根拠

- （1）本年度のチャバネアオカメムシの総誘殺数（フェロモントラップ・5月第1半旬まで）は県内6地点のうち4地点で平年比約11～71倍と多く、例年より早期に発生がみられている（表1、図1、写真1・2）。
- （2）昨年はカメムシ類の餌となるスギ・ヒノキ球果量が多く（栃木県林業センター調査結果）、かつ暖冬の影響もあり、越冬世代虫数が多いと考えられる。
- （3）本年の関東地域（東京）におけるスギ・ヒノキ花粉の飛散量は、昨年比で少なく（69%）（一財日本気象協会・4月18日発表）、球果量は昨年より減少すると考えられるため、果樹園地へのカメムシ類の飛来が多くなるおそれがある。
- （4）気象庁の一月予報（5月2日発表）は高温傾向であるため、カメムシ類の活動が活発化し、果樹園地への飛来時期が早まるおそれがある。

4 防除対策

- （1）園内をこまめに観察し、早期発見に努め、カメムシ類の飛来が確認されたら防除する。飛来は長期間継続するため、地域の防除暦及び栃木県農作物等病害虫雑草防除指針※を参考に、残効期間の長いピレスロイド系薬剤や、忌避効果が期待できるネオニコチノイド系薬剤を効果的に使用する。

※ <https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/tochigi>

- （2）なし園等では多目的防災網（4mm目合以下）を速やかに完全展張し、園全体をすき間無く被覆する。
- （3）有袋栽培では、袋掛けを早めに行う。

5 防除対策上の留意点

- （1）夜間の気温及び湿度が高いと予想される日には、日没以降にカメムシ類が多く飛来するおそれがあるため注意する。
- （2）山林に隣接する園地や、過去に多発した園地では、特に注意する。
- （3）過度な薬剤散布は、ハダニ類やカイガラムシ類の天敵を減少させ、害虫の多発生を招くため、必ずカメムシ類の飛来を確認してから防除する。特に、ピレスロイド系薬剤は、天敵への影響が大きいため多用を避ける。
- （4）夕方や早朝の防除が効果的であるが、薬剤散布時には、近隣への薬剤の飛散（ドリフト）や騒音に注意する。

表1 5月第1半旬までのフェロモントラップによるチャバネアオカメムシ総誘殺数(頭)

	宇都宮市 (北部)	芳賀町	那須烏山市	矢板市	宇都宮市 (西部)	佐野市
調査開始時期	4月第1半旬			5月第1半旬		
令和6(2024)年度	100	684	0	8	323	200
令和5(2023)年度	1	68	0	5	6	1
令和4(2022)年度	3	98	0	2	2	3
令和3(2021)年度	0	29	0	1	0	0
令和2(2020)年度	33	26	1	0	28	1
令和元(2019)年度	3	30	0	13	1	1
平成30(2018)年度	41	143	0	4	121	2
平成29(2017)年度	0	9	0	1	1	2
平成28(2016)年度	1	35	0	1	7	7
平成27(2015)年度	7	5	1	27	5	0
平成26(2014)年度	1	2	0	6	2	11
平均値(過去10年間)	9.0	44.5	0.2	6.0	17.3	2.8
平年比(倍)	11.1	15.4	0.0	1.3	18.7	71.4

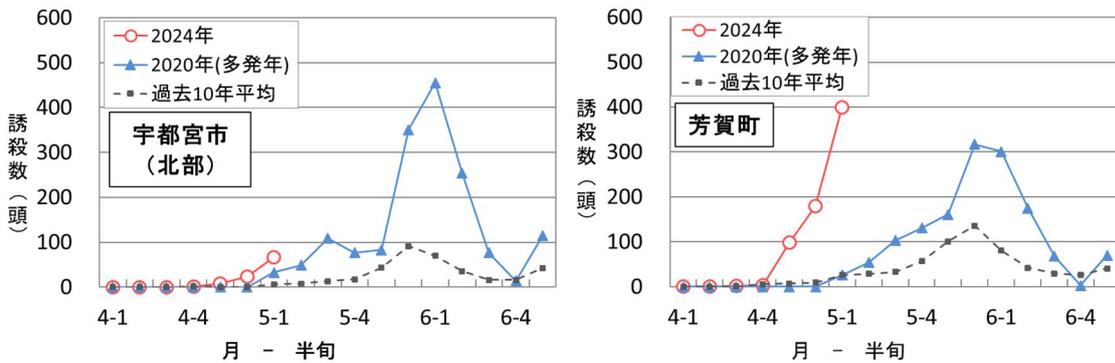


図1 誘殺数の多い地点(宇都宮市(北部)・芳賀町)のチャバネアオカメムシ誘殺数推移(半旬ごと)



写真1 チャバネアオカメムシ成虫



写真2 トラップの誘殺状況(5月7日調査)

詳細は、農業総合研究センター 環境技術指導部 防除課 (TEL 028-665-1244) までお問合せ下さい。  
 病害虫情報発表のお知らせは「栃木県農政部 X(@tochigi\_nousei)」、農業総合研究センター  
 ホームページ (<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html>) でもご覧になれます